



NPO壁のない大学  
**岩田 武** 理事長

Takeshi Iwata



渡瀬地区地域づくりの会  
**蛭田 吉郎** 会長

Yoshirou Hirut



荻ノ沢集落(春りんどうの  
関根 成男 代表

Shigeo Sekin



中沢集落  
**金澤 一夫** 代表

---

TENJO KANAZAWA

回答が寄せられ、これらの答えは都市の住民が農山村に求めるものと一致しているとの報告がありました。

また、温暖化の影響や食料の自給率、ライフスタイルの見直しだによって農山村や農業が注目を集めているので、都市との交流を進めながら、自信を持つて地域づくりを進めていくつてほしいとの提言がありました。

す。鰐川村は、明日形学園（葉賀）の卒業生の紹介で知り、農業を基本とした村づくりや都市との交流を進める本村に魅力を感じて、村内の遊休農地などを活用して農業体験講座を計画しています。

とを行い、地域が「一体となつて地域づくりを行つてゐる様子が報告されました。

食で販売するなど、集落で楽しみながら地域づくりを行っている様子が報告されました。

第二部では、NPO壁のない大学の岩田武理事長が「鮫川村の魅力を語る」と題し、講演を行いました。

NPO壁のない大学は、体験や実習を重視した公開講座を通じて生涯学習の発展に貢献することを目的に立ち上げられ、五つの講座を行っているNPO法人です。また、環境保護と健康を優先した事業を行う株式会社を設立し、現在、都内のアンテナショップで、「手・まめ・館」の野菜を販売しています。

渡瀬区長が、渡瀬区の取り組みについて発表しました。

渡瀬区では、統合により廃校になつた渡瀬小学校跡地を住宅団地にすることで地域を活性化しようと、まちづくり交付金事業を活用した地域づくりを進めています。事業を進めるにあたり、「渡瀬地区地域づくりの会」を組織し、地域の資源を生かすための検討を重ね、小学校の思い出の品を集めたメモリアル館の改修や江童田の滝遊歩道の補修、ヤマメ釣り大会な

について発表しました。荻ノ沢集落では、遊休農地の解消や交流人口を増やして地域を活性化しようと、柿の木の里づくりを行っています。活動では、集落内の使われてないなかつた畑にオーナーを募集して柿の木を植えました。オーナーには、北海道や関東地方在住の四十八人が応募し、柿の木の植樹祭や交流会などを行っています。また、地域内の遊休農地をさらに生かすため自然薯を栽培し、手・まめ・

を進めて います。中沢集落では、めん羊飼育の先進地研修を行いながら検討を重ね、地域にめん羊を導入しました。また、集落内に羊小屋を整備し、集落の全戸で記念式典も行いました。

また、めん羊を見るために集落を訪れる家族連れなども増え、めん羊のいる景観を維持しながら、集落で繁殖経営を行い、ジンギスカンをするなどを目標としているとの報告がありました。



村の魅力を再確認し、地域づくりの方向性を確認した講演会

# [クローズアップ] 地域づくり講演会

# 地域の魅力を探る

村主催、渡瀬地区地域づくりの会(蛭田吉郎会長)・中山間協定間協定協議会(堀川信四郎会長)共催の地域づくり講演会は2月25日、村公民館で行われ、地域づくり団体や関係者など約100人が出席しました。

講演会は3部構成で進められ、大妻女子大学の西成典子教授による基調講演、NPO壁のない大学岩田武理事長による講演が行われたあと、まちづくり交付金や中山間直接支払制度を活用し、地域づくりに積極的に取り組む3つの地区(集落)がこれまでの活動内容などを発表しました。講演会は、地域の魅力を再認識する貴重な機会となりました。